

日本心血管理学療法学会「COVID-19 関連情報特別チーム」
海外の専門情報

No.31

調査者	藤田 吾郎、井澤 和大
情報ソースの刊行日	2020年4月30日
情報ソースの調査日	2020年5月2日
日本理学療法士学会 HP に公開された日	2020年5月9日
日本語タイトル	心不全患者に対する COVID-19 の二次的影響
情報ソース	Reza N, et al. Secondary Impact of the COVID-19 Pandemic on Patients With Heart Failure. <i>Circ Heart Fail.</i> 2020 May; 13(5): e007219.
情報のカテゴリー	心疾患全般
発信地域	北アメリカ (米国)
DOI	10.1161/CIRCHEARTFAILURE.120.007219
URL	https://www.ahajournals.org/doi/10.1161/CIRCHEARTFAILURE.120.007219
要約	<ul style="list-style-type: none"> 社会的距離をおき、家にいるべきだというメッセージの誇張は、心不全患者を混乱、怯えさせる。また、それらうつ血や低心拍出の増悪に関する評価を遅らせ、転帰の悪化に繋がる可能性もある。 大多数の患者は、目標とするガイドラインに沿った投与量で、薬物療法を受けていない。COVID-19 は、この目標実現を更に遅らせる。 安定している、駆出率が低下した心不全患者 (heart failure with reduced ejection fraction: HFrEF) では、植込み型除細動器 (Implantable Cardioverter Defibrillator: ICD) の植え込みや心臓再同期療法の治療が延期されている。加えて、補助人工心臓や心臓移植を待つ進行性の心不全患者の評価も中断される可能性がある。 米国の予備的データ (COVID-19 関連) は、ST 上昇型心筋梗塞に対する心臓カテーテル検査の減少や未診断合併症による重症度の増加を示している。そのため、心不全患者が急増する可能性がある。 対面診療や待機的治療の再開は、従来の外来診療モデルが過剰になる可能性がある。そのため、評価と治療の優先順位をつける仕組みを導入することが必要となる。
最も注目するポイント 理学療法にどのように役立つか？	<ul style="list-style-type: none"> COVID-19 パンデミック段階により、至適治療を受けることができいない心不全患者が増加している可能性がある。